



令和7年度スタート

いよいよ新年度が始まりました。3年生は、進路実現に向けて受験学習を本格化させていくと思いますが、学習する前にきちんと計画を立てて取り組むことが大切です。計画を立てることで学習内容の振り返りと改善点をはっきりさせることができ、日々効率よく進めることができるメリットがあります。今年度は、計画をきちんと立てることを意識してみてください。1・2年生も、計画 → 実施 → 振り返りのサイクルを確立することが大切です。「鹿児島中央高校C-pass」を活用して、このサイクルを定着させていきましょう。

令和6年度入試合格状況総括

(1) 大学入学共通テストの分析

- ① 志願者数 (2/6 大学入試センター発表「最終集計」より)

全国 495171 人【前年度比 3257 人増加】

※志願者数は7年ぶり増加。特に現役生は6434人増加した。このため2025年3月高等学校等卒業見込者のうち、共通テストに出願した者の割合を示す現役志願率は45.5%で0.3ポイントアップし、過去最高となった。

- ② 6教科1000点満点による予想平均点(データネット実行委員会の推定より)

文系→全国 620 点 理系→全国 633 点

※大学入試センター発表の最終集計と本校自己採点の結果を比較すると国語・地歴公民・理科基礎・外国語(英語)は全国集計結果の平均点を超えています。数学・理科・情報は下回っています。この結果から理数科目に苦手意識を抱いている生徒は、教科担任に相談し、現在の学習スタイルを見直そうとする積極的な学習姿勢が大切です。ぜひ、3月までの学習内容を振り返り、早速、行動してみてください。

(2) 本校の入試合格状況

今春卒業した60期生は、朝課外が開始される6月中旬までの期間、7時35分から各教室で自学に励む生徒が多い学年でした。その結果、着実に学力を向上させ、例年になく難関国公立・私立大学を受験する生徒が多かったです。主な国立大学合格状況は、九州大学5人(昨年度現役合格2人)・熊本大学15人(昨年度9人)・東京農工大1人・横浜国立大学1人・千葉大学2人(昨年度1人)という結果を収め、そして主な私立大学の合格状

況では、早稲田大学3人・慶応大学1人・青山学院大学4人・明治大学3人・同志社大学2人・立命館大学6人という素晴らしい結果を収めてくれました。詳細は後日配布の『進路の手引き』で確認してください。

〈主な国公立4年制大学合格実績(既卒含)〉

大	学	名	R 6	R 5	R 4			
東	北	大		1				
筑	波	大		1	1			
東	京	大		1				
東	京	学	芸	1	1			
京	都	大		1				
広	島	大	4	4	2			
九	州	大	5	2	5			
九	州	工	業	4	4	2		
福	岡	教	育	4	4	4		
熊	本	大	15	10	4			
鹿	児	島	大	112	125	112		
国 立 大 学 合 格 者 数			169	198	154			
大	阪	公	立	大	1	2	2	
下	関	市	立	大	11	3	2	
北	九	州	市	立	大	6	5	5
福	岡	女	子	大	1	1	2	
長	崎	県	立	大	1	5	3	
熊	本	県	立	大	4	4	3	
公 立 大 学 合 格 者 数			41	30	23			

進路に関する情報収集に努めよう!

各大学のHPには入試情報が適宜、更新されています。出願に関する事項やオープンキャンパス開催の案内など確認すべきことが多数掲載されています。学校で配布される資料は情報が限られますので、自分が志望する進学先の情報収集は定期的に行ってみてはどうでしょうか。早めの対策が、進路実現の可能性を高めてくれると思います。

【令和7年度鹿児島大学夏季オープンキャンパス】

7月31日(木)	歯学部
8月1日(金)	医学部医学科、歯学部
8月2日(土)	法文学部・教育学部・理学部・工学部・農学部・水産学部・共同獣医学部
8月3日(日)	法文学部
8月7日(木)	医学部保健学科

※参加については、大学HPからの事前申込が必要です。詳細は後日、掲載される予定です。

本気を根気強く

3学年主任

2024年度第103回全国高校サッカー選手権大会(以後、選手権)は、群馬県の前橋育英高校が2度目の優勝を果たし幕を閉じました。前橋育英を率いたのが、サッカー部監督就任42年目(当時)の、山田耕介先生です。今回はこの山田先生について書きたいと思います。

山田先生は長崎県の生まれで、同県島原商業高校の出身です。先生は高校時代サッカー部に所属していましたが、当時、同部を率いていたのが、後に同県国見高校を6回の選手権優勝に導く、名将小峯忠敏先生でした。山田先生自身も高校3年時はキャプテンとしてインターハイ優勝を果たしています。小峯先生の薫陶を受けた山田先生は、小峯先生の背中を追いかけて、大学卒業後は、前橋育英高校で教員、そしてサッカーの指導者としてのキャリアをスタートさせます。

山田先生が赴任した当初は弱小のサッカー部でしたが、それでも監督就任初年度、同校サッカー部はインターハイ初出場、5年後には選手権に初出場します。その後は、全国大会の常連校となり、2009年にはインターハイ初優勝、2017年には選手権でも初優勝を果たします。現在では同校サッカー部からプロになった選手も100人を超えました。

この大偉業を成し遂げる裏には常人には到底まねできない、「本気(の指導)を根気強く」続ける山田先生の毎日の生活習慣があります。

山田先生の毎朝は6時30分の出勤から始まります。諸資料に目を通し、7時30分には朝練を見ます。朝練後、コーチ陣と綿密にトレーニング方法等についてミーティング(共有)。その後は試合の分析等を行います。同じ試合の動画を3回は見て、先生自らが編集、選手にフィードバックします。現代サッカーはものすごいスピードで進化しているので、先生自身が「サッカー」を学ぶことに余念がありません。常に新しい知識を学び続け、それを指導に還元しています。

16時からトレーニング。用事がない限り、毎日、顔を出します。指導において常に大事にしているのが、「人の話を聞く、そして考えることができる力(先生はこれらを人間力と呼んでいます。)の育成」です。なんとか選手たちにそういうことに気付いてほしいと日々、指導しています。この「人間力の育成」に共感して、前橋育英サッカー部に入る選手もいます。そして週に数日はサッカー部の寮に泊まり、選手を見守っています。こういう生活を、校長職、学監職の時代も含めて現在まで続けてきました。

どうしてこういう生活を40年以上も続けられるのか? 山田先生は答えています。「本気で選手に向き合わないと、選手の本気度は上がってこない。だからこちらも本気でやるんだ。」と。続けて「この考え方は高校時代に受けた小峯先生の厳しいながらも愛情や熱意を感じた指導に原点はある。」とも言われています。

物事に「本気」で取り組まなくても、それを「根気強く」続けなくても、人生は進みますが、山田先生のような生き方の方が、いい人生になる気が私はします。この1年間、そして高校卒業後も、物事に本気で取り組み、それを根気強く続けてみてはどうでしょうか。今回書いたことは、You Tubeにもアップされているので、時間があつたらぜひ視聴してみてください。何か感じてもらえたら幸いです。